

令和4年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名：北海道
農業委員会名：北広島市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和4年4月1日現在)

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和2 年 7 月 20 日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	7	7
認定農業者	—	5
認定農業者に準ずる者	—	
女性	—	1
40代以下	—	2
中立委員	—	1

任期満了年月日 令和5 年 7 月 19 日

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	5	5	5

2 農家・農地等の概要

経営体数		農業者数(人)		経営体数(経営体)	
総農家数	138	基幹的農業従事者数	267	認定農業者	53
農業経営体数	102	女性	113	基本構想水準到達者	11
※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入		40代以下	64	認定新規就農者	3
		※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入		農業参入法人	0
				集落営農経営	0
				特定農業団体	0
				集落営農組織	0
				※農業委員会調べ	

単位:ha

	田	畑				計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	440	1500				1,940

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

Ⅱ 最適化活動の目標

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)／(A)	
	1,940 ha	1,315 ha	67.78%	%
課題	担い手である認定農家に後継者が少ないことから経営体の高齢化が進んでいるほか、地域に新規就農者(認定就農者)が少ないことから担い手の育成・定着と、これらの実情に合った農地の集積が求められる。また、所得向上のための法人化や営農集団による経営等を模索していく必要がある。			

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	令和5 年度	集積率	80.00 %
今年度の新規集積面積	10 ha	農地面積(C)	1,940 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	1,325 ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)／(C)	68.25 %

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

(2) 遊休農地の解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	20.4 ha	11.0 ha	9.4 ha
課題	農業従事者の減少と高齢化等による遊休農地の増加、農地の分散等が、農地の確保・有効利用を図る上での課題となっている。		

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	11.0 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	2.2 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	9.4 ha
--------------------------	--------

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	土地所有者への聞き取り及び利活用を促すほか、地域の農業者等に情報共有を行い、市や道央農業振興公社等と連携しながら解消に向けた土地利用を図る。
-------------------------	--

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	0 ha
---------------------------	------

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	令和元年度新規参入者		令和2年度新規参入者		令和3年度新規参入者	
	1	経営体	4	経営体	2	経営体
	1.83	ha	15.12	ha	3.39	ha
課題	新規参入者に提供できる農地が少なく、また、遊休農地等が存在するが、狭小、荒廃の程度が著しいなど、極度に生産条件が劣り、新規参入者が継続して効率的に利用していくことが困難であるため、農地の確保が難しい。					

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

権利移動面積	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均	
	196.84	ha	175.08	ha	198.37	ha	190.10	ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積			19.01		ha			

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	3	日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	0	人
			農地利用最適化推進委員の人数	5	人

(2)活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数		3	回
取組時期	取組項目	強化月間の内容	
9月	①、②	農地利用状況調査(農地パトロール)を行い、遊休農地が発見された際には地域の担い手等に情報提供を行い、遊休農地の解消及び集積を図る。	
11月	①、②	農地利用意向調査を行い、遊休農地所有者の意向を確認するほか、担当地区の農業者と積極的な意見交換等を行い、担い手等に集積を図る。	
1月	①	賃貸契約の更新時期のため、貸し手及び借り手の情報共有を図り、担い手への集積に努める。	

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数		1	回
開催時期	未定	相談会名	北海道新規就農フェア
参加者数	1	開催場所	未定
相談会の内容	農業に興味があり、農業を生業として考えている都市住民等を対象に、各地域でどのような農業運営があつて、また、営農に対して支援や制度などの概要や制度の説明、就農に向けた疑問等の対応を行う。		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)